結の故郷教育シンポジウム　開催結果概要

1　期　　日　　令和元年５月１２日（日）午後１時３０分～午後４時１５分
2　場　　所　　文化会館大ホール
3　参加者数　　１５０人
4　内　　容
（１）開会あいさつ　　久保教育委員会教育長
（２）第１部　　基調講演　　主題　「知識基盤社会に生きる子どもが育つ学校を創ろう」
講師　　松木健一 氏（福井大学理事・副学長）
第２部　　パネルディスカッション　主題「子どもたちのより良い教育環境とは」
コーディネーター　松木健一 氏（福井大学理事・副学長）
パネリスト　　田中宏直 氏（大野市ＰＴＡ連合会会長）
巣守幸代 氏（大野市ＰＴＡ連合会子育て委員会委員長）
松田匡彦 氏（大野市民間保育園保護者会連合会会長）
勝矢和宏 氏（大野市小中学校校長会会長）
久保俊岳　　（大野市教育委員会教育長）
（３）質疑応答
（４）閉会あいさつ　　清水教育委員会事務局長

5　議事概要

◎開会あいさつ

子どもたちの笑顔を保証するために、どのように教育環境を整備するかということが、私たちに課された大きな責務で、我々の願いでもあり、目標である。この大きな目標を見失うことなく、明日の子どもたちの笑顔、そして５年、１０年、２０年後の同じ子どもたちの姿をイメージし、いろいろな教育施策を進めていきたいと思う。学校再編の問題も、この教育環境をどう整備するかの中の大きな要素の一つ。今日は、我々の中にどのような課題があるのか、大野が抱える問題はどういうものがあるのかを、多くの皆さんと共有して、どのような方向で進めたらいいのかということをお互い意見交換、或いは勉強していく、そのような思いでこのシンポジウムを企画した。

今年は、再編計画の見直しのスタートと位置付けたいと思っている。このシンポジウムの後、５月下旬から、各小学校、中学校、幼稚園、保育所、こども園等の保護者の皆さま、各地区へお邪魔しながら、いろいろな立場、いろいろな視点から、意見交換をさせていただきながら、進めていきたいと思う。いただいた意見、あるいは見えてきたもの、それを今後の見直しの検討にしっかり反映し、慎重に、丁寧に、しかし着実に一歩一歩進めてまいりたい。

◎第１部　基調講演　主題「知識基盤社会に生きる子どもが育つ学校を創ろう」

今、学校が置かれている状況は、大きく１つは人口減少、もう１つは産業構造の変化である。人口減少により、子どもの数が減り、学校の統廃合の問題や教員の削減の問題とかが出てくる。さらに、子どもたちや先生方たちに求められる資質や能力のあり方も変わってくる。当然、教育のあり方も変わってくる。

人口が増加し、経済が発展していた時、子どもはゆっくり大人になることが出来た。経済状態が良くなってくると、精神的な発達はゆっくりとなり、社会が求める発達の状態と、実際の子どもの発達の間にズレが生じることになっている。

これから、生産年齢人口が少なくなり、非生産年齢人口が増え、経済がどうなっていくか分からない不安定な社会を迎える。この不安定な社会に果敢に立ち向かっていくことが出来るようなコンピテンシー（業務遂行能力の高い人物に共通する行動特性）を子どもたちに培っていかなければいけない。

これまで、先生が知識や技能を覚えて、子どもたちに伝え、子どもたちはそれを身につけて社会に出るというようなことを学校はやってきた。そのために、先生は知識や技能を覚え、それを教える方法を習得してきた。ところが、今は知識基盤社会である。知識基盤社会とは、知識が重要であるという社会。一生懸命覚えたことがあっという間に役に立たなくなる社会で、先生は教える専門家から、学びの専門家に変わっていかなければいけない。

高度経済成長を支える必要な人材は、競争心があって、忍耐力があって、頑張れる人が求められた。知識基盤社会になって、学力のあり方が変わってきた時に、どういう力をつける学校が必要になってきているのか、そういうことも考えて、学校の規模とかを考えていかなければいけない。さらに地域のニーズということも非常に重要な観点である。

知識基盤社会での学校は、地域とは切り離せなくて、地域の他の資源との連携を含めた学校のあり方を考える。それも小学校、中学校、別で考えるのではなく、いろいろな組み合わせを、高校も含めて考え、地域の学校を創っていく必要がある。そのためには、地域に生きる一人一人が学校を人任せにするのではなくて、自分たちで学校を通して生きる喜びを実現していけるような地域にしていくということが極めて重要な課題である。

◎第２部　パネルディスカッション　　主題「子どもたちのより良い教育環境とは」

◆大野の教育環境をどう思っているか、どういうふうにすると良い環境になるか。

〇市で比較的生徒数が多い陽明中学校では、習熟度別英語クラスがあり、比較的苦手なチームと比較的得意なチームのクラスに分かれて英語教育を実践している。各学年１クラスしかないと、なかなか小分けに習熟度別に分けて教育をしていくのは難しいと思う。陽明中学校でも先般、ソフトボール部が活動をすることができなくなった。野球部、サッカー部なども人数が揃わなくなりつつある。また、西校と下庄しかなかった金管クラブの活動もできなくなりつつある。有終西小学校のＰＴＡ活動は、児童数も減り、市外小学校との交歓会や廃品回収など縮小せざる得ない状況となっている。子どもたちにとって良い教育環境とは、いろいろな選択肢の中で、自分の立ち位置、居場所とかを見つけられる環境が良いと思う。

〇和泉中学校は超小規模校であるが、幅広い世代が日常的に触れ合う機会が多く、上級生が下級生の面倒を当たり前に見て、みんながとても仲良しである。２、３年前から運動会も小中、保育園と合同で行い、地域の方々と関わる機会もとても多い。また一人一人の存在が大きいとともに、地域の伝統芸能や昔の知恵を学ぶことが出来る。悩ましいところは、複式学級なので、友達が少なく感じることと、授業中も相談する相手、グループ討議ができない。中学校では、部活の種類が少なく選択肢が狭く、団体競技ができなかったり、音楽の授業で合唱や合奏ができなかったりする。より良い教育環境ということでは、大自然の中で子どもたちが伸び伸びとして、おいしい水と空気で育って、おいしいものをたくさん食べて、その中で喜びを感じてほしい。それが将来、大野に帰ってきたいと思える原点になるのではないかと思う。プラス、大野の伝統を地域の人たちとの触れ合いの中で受け継いでいける教育もいいと思う。

〇大野市の子育て環境は、近くにおじいさん、おばあさんがいて子どもたちをサポートしてくれる。また、ご近所が子どもの面倒を見てくれるなど、地域社会もおおらかに子どもを育てることをサポートしてくれているという現状がある。教育環境としては、大野市もすごく優れているのではないかと感じている。より良い環境と考えたときに、福井県が全国で一番であるのならば、福井県の中で大野市の教育が一番であるように目指してほしい。例えば、市全体が教育で英語に特に力を入れるなど、強みを持ってほしい。移住者が増えるような教育環境を進めてほしい。

〇家庭では、おじいちゃん、おばあちゃんの存在は強みで学校で教えることができないことを教えてくれる。地域では、子どもに対して無関心でない方が多い。学校では、愛着を持って熱意のある教員が多い。学校が抱える課題は、教員が足りない。学校の使命は、学力をつける、そして人間関係力をつけることで、その中で良い教育環境とは、子どもが子どもから学べる環境で、モデルとなる良い先輩がいることである。幼・保・小・中の連携を含めた環境を考えることが重要である。

〇大野の教育環境は、９年間を通した教育が出来ていること、電子黒板やＡＬＴの配置が充実していることである。今後、校舎や学校数の問題が出てくるが、不易と流行の部分をしっかり見極めなて対応をしていかなければならない。

◆学校の再編について、どう考えているか。これからの学校再編を考えていく上でヒントとなればよいと思う。

〇再編する場合に、中３、小６の最終学年の児童生徒が感じるストレスを極力少なくしてあげたい。また、校区が広がることによる課題解決、教育の人的財産である教員のモチベーションが低下しないよう、計画的、段階的な人事を考えてほしい。

〇再編に反対ならば、次の対策案を出すべきである。反対しているだけでは何も変わらず、各学校がやせ細ってしまうだけになる。学校の校区に関して、今、人数の多い学校などが、強者の理論に立たないでほしい。一日でも早く、スピード感を持って、進めていくべきと感じている。

〇学校再編の話が出たときは、自分の子どものことだけを考えるといち早く統廃合をしてほしいと思った。通学距離や学校の場所などで問題が出て、全員の希望通りにはいかないと思うが、将来のことをきちんと考えて、子どもたちのことを大事に考えなければと思っている。まず子どもを持つ親、若い世代、そして大野市へ希望して移住されてきた家庭の意見も必ず聞いていただいて、そういう意見を重視してほしい。

〇歴史と伝統を尊重しつつ、今の暮らしに合わせた議論を進めてほしい。大きい所が小さい所を吸収する的なことではなく、それぞれの学校の特色を尊重しながら、みんなで継承していけるような、１つの新しい学校、オール大野を創る感じで議論を進めるのがいい。議論を重ねて進めるべきだが、やってみないと分からない部分もある。少しずつ段階的に進めて、その都度修正し、理想に向かって進めていけばよい。

〇市全体で受け止めてやっていきたい。子どもの幸せを第一にと思っているが、それを実現することが未来の大野のまちづくりに重なってくる。正解というのはなく、みんなが納得できる解を探す、そういう作業を丁寧にやっていきたい。

◎質疑応答（敬称略）

◆地域の活性化として、学校を災害復興の拠点とすべきと思うがどうか。

◆不登校で学校へ通っていない部分の勉強を振り返ってできる環境をつくってもらえるか。

◆小さい学校を大きい学校に統合するのではなくて、大きな学校の子どもたちが小さい学校へ行くような視点で学校再編を考えるべきではないか。

〇いじめや不登校、差別について全力で取り組みたい。影に隠れてしまわないように頑張っていきたい。

〇学校は学びの場だけではなく、交流の場でもあるし、地域づくりの場でもある。公民館やディサービス、老人施設など同じような機能を持たせた施設を積極的に１つにしながら、地域の核をつくっていく。地域の核を学校だけに頼るのではなく、それらをつなぐ中で初めて地域の交流の場が生み出されるのではないかなと思う。それと同時に、子どもたちも重ね合わせながら考えていくことが重要。自分たちの地域は、こういうふうな地域づくりをするんだ、その中で自分たちはこういう責任を負っていくんだという覚悟の中で学校の再編問題を考えていきたいと思う。